

2023年10月11日

報道各位

## 福島医大・坂井教授宛ての申入れ書送付のお知らせ

～甲状腺がん患者の生体試料を用いたヒトゲノム研究について～

当弁護団は本日10月11日、別紙の通り、福島県立医科大学放射線生命科学講座 坂井晃教授宛ての申入れ書を送付いたしましたのでお知らせします。

坂井教授は今月5日、英国の科学雑誌に掲載された自身の研究論文について記者発表し、翌日の地元紙に、「原発事故による被ばくの影響は考えられない」（福島民報）、「甲状腺がんの発症に放射線の影響なし」（福島民友）といった見出しで報じられました。しかし、当弁護団が原著論文を確認したところ、「甲状腺がんの発症に放射線の影響がない」などといった記載はありませんでした。新聞報道は、研究結果と乖離しており、ミスリードと言わざるを得ません。こうした事態を受け、当弁護団は、甲状腺がん患者から委任を受けた立場から、坂井教授に対し5項目の要求をいたしました。

なお、記事にショックを受けた原告家族のコメントは以下のとおりです。Zoomによる取材にも対応いたしますので、ぜひ報道いただきますようお願いいたします。

<原告家族のコメント>

"えっ!!" この記事を見た時、あまりのショックで、何度も読み直しました。

"甲状腺ガン発症に放射線の影響なし!"見出しだけでもショッキングでした。

我が家は福島民友を読んでいます。記事は短くまとめてありましたが、CTが原因?との研究結果が英国の科学雑誌に掲載されたとのこと。私たち家族は福島医大で検査をし、治療し、手術をし、経過観察をし、そして再発し、また検査して、手術して、RI治療を受け・・・という生活が続いています。私たち患者やその家族には丁寧な説明が一切なく、このような結果が、新聞紙上で一人歩きすることに対し、大変、辛い思いです。子どもはただの実験台?人体実験でしょうか?福島医大は患者ファーストではなくて、医者ファーストと感じます。

<井戸謙一弁護団長のコメント>

この研究から言えることは、抹消血リンパ球の染色体転座の数から、福島で多発している小児甲状腺がんの原因が原発事故による被ばくである事実が証明できなかったということだけであり、新聞報道内容は全くミスリードです。そもそも、甲状腺の内部被ばくが主たる原因である甲状腺がんについて、少ないサンプル数で、末梢血リンパ球の異常数をもって因果関係を調べようとする考え方自体が合理的ではないと思われます。被ばくとの因果関係否定論者がその事実を証明するために苦慮していることが窺えます。報道機関の皆さんは、研究者の発表内容を鵜呑みにするのではなく、原著論文にあたって、その評価をしてください。

**本件のお問合せ先**

〒522-0043 滋賀県彦根市小泉町 78-14 澤ビル 2 階

井戸謙一法律事務所

3 1 1 子ども甲状腺がん裁判弁護団長 弁護士 井戸謙一

 0749-21-2460  0749-21-2461

Ke\_ni\_do@yahoo.co.jp